

NJ 素流協 News

令和 7 年 1 月 10 日

第 240 号

令和 7 年 1 月 10 日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園 1 丁目 3-6 (農林会館 5 階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

年頭所感

ノースジャパン素材流通協同組合

理事長 鈴木信哉



明けましておめでとうござい
す。 謹んで年頭のごあいさつを申
上げます。

昨年を振り返ってみましょう。
国産材時代に向けて「外材から国
産材へ、RC造・S造から木造へ
ウッドチェンジ」と国産材の需要
が増加し、供給も回復してくると
予測していました。しかしながら、
外材の輸入は減少せず非住宅の木
造化、木質化も急転回しなかつた
ことから、製材・集成材は外材主
導価格に先導され、製品価格の低
下・フル稼働に至らず、合板も大

幅な減産が継続されました。

結果、丸太価格も低迷し、需要
も増加せず、川上の素材生産業界
は厳しい一年となりました。

こうした中、当組合としては、
供給先からの特注材、各県産材の
きめ細やかな対応や 8 cm からの杭
材から 50 cm 上の一般材まで、組合
員が困らないよう多様な供給先の
情報の伝達に努めて参りました。
その結果、年間の取扱量は、前年
並みを確保できたと思っております。

何故、このようになったかを考
えると、外材に対抗できる国産材
の強度・品質・供給体制が整う中、
一体誰が外材に拘わっているのか
である！「外材に拘わるのは…？」
工務店・住宅メーカーなのか？機
械プレカット工場なのか？外材製
品輸入業者・問屋なのか？である。

ここに全面的にアタックするのは
「誰なのか？」である。ここが「キ
ーポイント」である。

【こうした中、東北においては】
①林業事業者の若手就業者の「増」、
高性能林業機械の「更なる導入」
が進む

②大型製材工場の設備刷新、新設
工場の本格稼働、2 シフト化によ
る「生産体制増」

③広葉樹用材のウッドショック継
続

④バイオマス工場の更なる新設計
画が進む等国産材の供給体制が整
備されてきている

【今年の木材需要の予測】

①大手ゼネコンの中央での木材利
用促進協定は、将棋倒しの状態で、
地方ゼネコンも波及

②害虫・長くなった夏場の虫害時
期に丸太在庫を減らした工場は、
丸太不足に悩むことになり、安定
的な仕入れ方針に転換

③新増設工場のフル稼働は、減価
償却費もあり、まじめに稼働率を
上げる

④北東北での昨年・一昨年の水害復旧は、林道復旧が最後で影響つづく
 ⑤A材・B材・C材・D材のすべての活用に組み組む林業事業者の増加
 ⑥やっと、米マツに頼っていた合板長尺、PKSに頼っていた港湾バイオ工場の国産材転換が進む

【具体的樹種二一ズ】

①カラマツ・アカマツ、スギの長尺合板用長級の需要増
 ②梁材の国産集成材利用に向け、カラマツ・アカマツのラミナ需要増大
 ③ロシア材に代わるスギ、アカマツ小割用丸太の需要増大
 ④いよいよ足りなくなったスギ高齢級80(70)年以上の需要増大
 ⑤地中杭はカーボンストック効果もあり、カラマツ、スギ杭材需要堅調
 ⑥素材生産者が面倒くさがる3・65mの不足は増大
 ⑦円安もあり、バイオマス発電用、製紙用チップ不足は増大
 ⑧広葉樹用材3m以上の需要の増大
 最後に、外材に関わる人々が改心することを願う一年です。いずれにしても、組合員の皆様と供給先の皆

様とwin-winの関係が築けるよう、職員一同一層きめ細やかな対応に努めることを明記して、新年のごあいさつといたします。

特集2
**令和6年度
 第1回 林業講演会
 後編 意見交換の部**

NJ素流協は11月7日、今年度第1回目の林業講演会「森林所有者負担の少ない再造林の実現と造林事業体の役割について」を盛岡市で開催しました。先月号に引き続き、後編意見交換の内容をお伝えします。

【司会】NJ素流協 理事長

鈴木 信哉

【パネリスト】

林野庁 森林整備部 整備課

造林間伐対策室長

天田 慎一 氏

宮城県 水産林政部 森林整備課長

村上 泰介 氏

山形県 農林水産部

森林ノミクス推進課 課長補佐

尾形 俊成 氏

株式会社山美 代表取締役

佐藤 涼 氏
 株式会社野田造林 代表取締役
 野田 強志 氏

※秋田県 農林水産部 森林資源造成課長 永井秀樹氏は、公務のため欠席となりました。

NJ素流協 鈴木理事長（以下 鈴木） まず、天田さんにお伺いします。再造林率が低いで中では予算要求をしていますが、再造林率何%以上になれば予算が取りやすくなりそうですか？

林野庁 天田氏（以下 天田） 「全国森林計画」では再造林率6割くらいになっています。林野庁の事業では造林費用の半分近くが、植栽、



林野庁 天田氏

地拵え、下刈り、鹿柵なので、当然、再造林率を上げていけばこれらの費用も増えていくと想定しています。そのためにも、低コスト化の取り組みを進めつつ、予算要求していきたいです。

鈴木 予算が足りなくなっている県も出てくると思います。東北は少ない：とまらないように、予算配分もバランスよくお願いしたいと思っています。

天田 そうですね。再造林率が上がっていく中で、繰り越していた予算でやりくりしている県もあると思います。バランス等色々考慮しながら配分を考えていきたいと思っています。

鈴木 ありがとうございます。次に、宮城県の村上さんにお伺いします。秋田県の再造林支援では、ほぼ自己負担がゼロになっていて、林業・木材産業とは関係のない企業からも再造林基金を集めているというお話でした。大きな企業がたくさんある宮城県でも、呼びかけたらどうか？と思っと思っていますがいかがでしょうか。

宮城県 村上氏（以下 村上）

確かに、秋田県さんの取り組みは非常に参考になるところが多かったです。こうした優良事例を参考に、再造林を進めるために、企業に声をかけるといったことも含めて色々実施できるように検討してみたいと思います。



宮城県 村上氏

鈴木 ありがとうございます。今、林業・木材産業と関係のない業種の民間企業でも、日本の緑を守りたいという気持ちを持っているところが増えていきます。各県含めて、企業を巻き込んだ活動を、ぜひ検討していただきたいです。次に、山形県の尾形さんに伺います。山形県の再造林経費支援をみると、10%の上乗せ分

を、緑の環境税ではなく一般財源で出しているようですが、これはやはり知事の意向でしょうか。

山形県 尾形氏（以下 尾形）

はい、やはり知事の意向は大きいと思います。当県の知事は山間部の出身で、お父様が営林署の職員をされていたということもあり、非常に林業に理解があります。知事が「再造林100%」を宣言したことで、県をあげて色々な取り組みをするに至っているのかなと思います。ただ、当県も財源に余裕があるわけではなく、造林は進むのですが、その分、間伐が進んでいかないジレンマも出てきています。



山形県 尾形氏

鈴木 ありがとうございます。では、村上さん、尾形さんにそれぞれもう

一問伺います。再造林が増えるので、下刈りといった作業も増えるので、予算がどんどん増していくのではな

いかと思いますがどうでしょうか。

村上 はい、下刈りが必要無さそう

なら省力化することも考えています。

尾形 山形県では、下刈りの予算が

ここ5〜6年が上がっていくという

試算が出ました。特定苗木の植栽で

なるべく早く下刈りを終わらせるよ

うな取り組みをしていかないと経費

は減っていかないと考えています。

鈴木 ありがとうございます。単純

に予算を増やしていくというわけに

はいかないと思うので、技術開発と

セットでやる必要があるのかなと思

います。次に、(株)山美の佐藤さんに

伺います。入社したものの、下刈り

をやらせると辞める職員がいっぱい

いると聞いたことがあります。造林

専門でやっている立場から見ると、こ

うした事態を防ぐ工夫はあるでしょ

うか。

新人に、「下刈りをするにあたって

の意味」をしっかりと理解してもら

うか。自分がどれだけ下刈りで苦勞しても、

それは意味があるのだと伝えること

を大事にしています。メンタルケア

も含め、私自身がその新人以上に仕

事をし、率先すること、大変なこ

とだと共感してくれる人がいる！自

分だけではない！」と思ってもらえ

るよう徹底しています。

鈴木 ありがとうございます。造林

専門の会社も若い人が応募してくる

ようですが、どういった意欲で入社

を希望するのでしょうか。

佐藤 そうですね。面接に来る方は

結構多いですが、造林についてそこ

まで知らずに来ている人がほとんど

です。「林業」という漠然としたイメ

ジだけで来て、私がどんどん説明し

ていくと、「すみません、考える時間

をいただいても良いでしょうか？」

と言われたりします(笑)。ですので、

まずはしっかり理解してもらおうとい

う壁がある印象です。

鈴木 分かりました。今日、講演会

を聴いている人達の中にも、造林で

株式会社山美 佐藤氏(以下 佐藤)

若い人が応募に来るのかな？と考える人もいると思います。ぜひ(株)山美さんに色々伺ってみると良いと思います。次に、(株)野田造林の野田さんに伺います。今、通年雇用でない若い人は集まらないと思います。「冬場の仕事をいかにして確保するか」について、新しくやりたいことやアイデアはありますか。

株式会社野田造林 野田氏(以下)

野田 ここ3〜4年前から通年雇用をしています。春〜秋までは植林・下刈りをしています。春植栽だけでなく、秋植栽もしていこうと思っています。他にも、県有林の保育間伐があります。今年は約30haの保育間伐を入札したので、1月いっぱいまではその作業ができると思います。最近、洋野町でもナラ枯れが起きていて、6月までが駆除できる期間になっっているの、冬場はそういった仕事にもスイッチできればいいのかなと思っています。アンテナをあちこち張っています。

鈴木 造園会社が、冬場の仕事が無いためという事で伐採に入る例もあり

ます。どの業界も通年雇用でない若い職員を集められないようなので、冬場の仕事探しは確かに大変だと思います。講演の中で、伐採業者に植付けのために綺麗に片付けてもらうという話をされましたが、山を伐る時点でその話をしているのですか？流れを教えてください。

野田 当社の場合は、木を買う段階で、経営計画に入れ、それに伴って植林が決まります。山主さんには「植えます。負担はいただきません」と話します。山主さんも、「それならば植えよう」と言っていただけです。当社で伐採前の刈払いをして綺麗にし、その後、伐採業者さんに伐採してもらおう。刈払っておいた枝葉を集めて現地破砕で32円材のチップとして出してもらい、地拵えまでやってもらっています。残材が少なくなるため、負担の少ない植林作業を行うことができます。

鈴木 分かりました。では次の質問に移ります。今、少花粉スギが注目されていますが、苗木の供給は大丈夫でしょうか。中々難しいという声

も聞こえます。山形県の尾形さんどうですか。

尾形 山形県でも、少花粉スギの取り組みをしています。挿し木ではなく実生苗なので、中々実がならない年もあります。そのため、生産量の安定に関してデメリットを抱えつつも何とか生産しています。

鈴木 宮城県ではどうですか？

村上 現時点では計画通りできています。元々の計画よりも多めに生産する計画になっているので、とある種類の生産が減ったとしても、別のところでカバーできるような考えて生産しているところです。

鈴木 ありがとうございます。では、林野庁の天田さんに伺います。本日は、造林専門の事業者の方が来られています。こうした事業者の全国組織は無い状況です。造林専門の事業者から意見を聞くとなったら、造林間伐対策室になりますか？それとも経営課ですか？窓口がよく分からなくて…。どちらの部署も経験した天田さんの意見を伺いたいです。

天田 私が経営課の総括をしていた

とき、新たに造林事業を開始する方に、造林の機械補助やソフト支援を始めましたが、まさに、造林間伐対策室と経営課で跨る分野だと思っています。造林事業者の数は増えていると思いますが、直接その声を集める機会はないので、両課で話し合っ、場を設けていければと思います。

鈴木 造林にかかる費用を計算していくとき、実際に造林をしている人達からの意見を聞いて実態を把握する仕組みが中々出来ていないように思います。素材生産と造林を兼ねている事業者も造林専門の事業者も色々いらっしやいますが、そうした事業者の把握や、どこが一番お金がかかっているか等ヒアリングする体制づくをお願したいと思っています。

天田 そうですね。林野庁では、歩掛りに公共設計労務単価をかけて費用を算出しています。歩掛り自体は、毎年各工程を調査していて、その中でヒアリング調査も行ってはいますが、おっしゃる通り、ヒアリングしてから調査するという流れにはなっていないので、最初にヒアリングするこ



株式会社山美 佐藤氏

とは大事だと改めて思いました。
鈴木 ありがとうございます。では次に、もう一度(株)山美さんと(株)野田造林さんに質問します。(株)山美さんの講演の中で、植林をお願いされる時、軽んじられることがあるという旨のお話がありました。そういつた相手の仕事も引き受けなければいけない状況なのでしょう。この人はこれくらい値段でした」というようなことは説明しますか？
佐藤 はい、基本この単価でやっています。…というように私の方から言いますね。すると相手は「えっ!? そんなに出すの!?!」という反応をしますが、そんなに出すの!?!というよう

な単価でもないんですよ。相手はそれ以下の単価で提示してくるので…。それでもできないわけではないですが、社員たちに全ての負荷がかかってくるのが嫌で、そういう意味で、お付き合いは難しいかな?という会社はあります。
鈴木 ありがとうございます。では、野田さんにも伺います。経営計画を作る際、山主さん側から声をかけてくるのですか?それともこちらから一緒に、経営計画に入りましょうと声をかけるのですか?
野田 最初に経営計画を作ったときは、山主さんは知り合いました。多くの山の管理を任せてもらえるようになり、それが核となっています。複数箇所合計90haほど皆伐できるところがあるので、ここを利用しながら業者と提携しています。
鈴木 本来であれば市町村や森林組合がやる仕事を代行しているようなイメージですね。事業体としては素晴らしい取り組みだと思います。それではここで、会場からの質問を募りたいと思います。

Q 野田造林さん、山美さんではどのように雇用や育成をしていますか。
野田 当社に入社してくる人は、林業未経験者がほとんどです。ここ数年でたまたま若者も入社してくれましたので、フォレストワーカーの研修で、資格を取ってもらっています。当社では木を伐らないので資格を存分に生かせないかもしれませんが、この先、造林以外の道を選んでも、林業界に残ってもらえればと思って資格取得を勧めています。
佐藤 当社では、緑の雇用研修生で1年目の人がいます。フォレストワーカー制度もしっかり利用しています。ただ、緑の研修のカリキュラムの中で、造林の勉強をする議題は少なくて、感じます。研修で学んだことと私の教育の仕方をすり合わせしながら、意見交換しながら技術を確立させていくという教え方をしています。
Q 夏場の下刈りについて、年々気温が上昇していて非常に苦戦しています。対策や工夫、心構えを教えてください。



株式会社野田造林 野田氏

野田 夏場の下刈りについては、工夫もそうですが心構えですかね。「自分の体は自分にしか分からない」から具合が悪くなる前に水分を取ることで。終業まで目一杯働くのではなく、日陰に入ったり、車内の冷房で涼んだりしながら働いてもらいます。疲れ方にも個人差があるので、自分で判断し、空調服や冷却シート等各自工夫しながらやっています。
 休んではダメとも時間まで働けとも言いません。そこを強制してしまうと、体を壊してしまうのである意味自由ですね。また、私のポリシーとして、現場の空気を悪くするとケガをするので「現場で怒らない」こと

を心がけています。班のまとめ役にも、休憩しようとしている人に対して寛容に対応するよう指導しています。

佐藤 野田社長のおっしゃる通りで、安全は絶対に徹底してほしいですね。社員にも、熱中症対策は一通り教えます。やはり自分のことは自分自身にしか分からないですし、皆同じスピードで出来るわけではないので、周りに流されないようにと強く言っています。とはいえ、自分のペースも施業クリティもどちらも守ってほしいので、そのバランスが保てるよう徹底しています。

Q 宮城県の村上さんと山形県の尾形さんに伺います。ユリノキが造林補助対象になったと伺いました。その実績や供給はどのようになっていますか。また、山形県では、焼き畑をしてそこに植栽しているという話を伺いました。火入れは簡単に許可になるのかどうか伺いたいです。

村上 造林補助対象は、各県で林

野庁に申請して認められることで決まります。宮城県では去年、ユリノキが対象になりましたが実績はほとんど無いようです。

尾形 山形県でのユリノキの補助は行っておらず、今は試験段階中です。焼き畑については、火入れに関する届け出は地元の市役所で受け付けています。実は、斜面があるとすぐ焼いて蕪(かぶら)の種を植えるといった、地域をあげて焼き畑が盛んな地域もあるので、地域的にもハードルは高くないのかなと思います。もちろん、火の始末には十分注意してもらっています。

鈴木 皆さんありがとうございます。それでは、最後の質問をしたいと思います。入社してくる若者は地元の人なのか県外の人なのか、野田さんと佐藤さんに伺います。

野田 当社は岩手県北出身者が多いですが盛岡市や雫石町の方も、ホームページを見て来ますし、問い合わせもあります。やはり人口

の多いところは求職者も多くていいのかなと思います。

鈴木 榊山美さんはSNSを積極的に活用しているのでそれを通して、という人もいるのではないのでしょうか？

佐藤 そうですね、今まで来てくれた人の多くは長野県内の方ですが、県外ですと千葉県の方もいました。ほとんどの方がSNSを通じて当社を知り、働きたいと言ってくれました。ですので、SNSを見てくれる人はたくさんいるんだなという印象です。県外からの相談も結構あります。

鈴木 ありがとうございます。次に、県庁のお二人に伺います。さきほど、アカデミーや林業大学校における造林の勉強の話ができました。宮城県、山形県ではどうでしょうか。

村上 他県では林業大学校というスタイルですが、宮城県では、みやぎ森林・林業未来創造カレッジで、様々な講座を選んで参加できる研修を行っています。その中に、



会場の様子

造林に関わる講習内容も含まれています。

尾形 一昨年まで山形県農林大学校で指導員をやっていました。1年生、2年生それぞれ約32時間を造林の授業として、基本的なところを教え込んでいました。また、実習では最初に苗木を作らせ、卒業する前には演習林の中で植栽もしました。造林をやりたいと言って、造林専門の事業体に就職した卒業生もいましたね。

鈴木 ありがとうございます。最

後に天田さんに伺います。再造林をする際の最大の問題は、所有者が誰なのか分からない山があるということだと思います。こうした所要者不明森林をどうするのか？何かアイデアはないでしょうか。

天田 まさに、所有者の方がどんないなくなっていて、放棄したという方もたくさんいらっしゃいます。その中で、林野庁としては、経営管理制度の見直しを議論しています。経営管理制度は市町村がメインですが、そこに事業体も入っていただいてよりスムーズにできるような検討もしています。

鈴木 林政アドバイザー制度もありますね。ふるさと協力隊で林業をやりたいという方もいるので、働きかけて、所有者不明森林を探す協力隊のようなものも良い気がします。皆さん本日はありがとうございます。

講師の皆様、ありがとうございました！！

トピックス

車両系木材伐出機械等の特別教育を実施しました

NJ素流協は12月17日～24日、岩手県林業技術センターにおいて、車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る特別教育（伐木等機械、走行集材機械、簡易架線集材装置又は架線集材機械の3区分）を実施し、17組合員から39名が受講しました。

当組合では林災防各県支部が実施する教育を定員漏れ等により受講できなかった組合員が多い場合に実施していますが、今回で11年連続の開催となりました。

助成金を活用して人材育成に取組みませんか

人材開発支援助成金は、事業主等が雇用する従業員に対して、職務に関連した専門的な知識及び技能を習得させるための職業訓練等を計画に沿って実施した場合等に

訓練経費や訓練期間中の賃金の一部等を助成する厚生労働省の制度です。

主な訓練コースに、(1)人材育成支援コース、(2)教育訓練休暇等付与コース、(3)人への投資促進コース、(4)事業展開等リスクリング支援コースがあります。(1)、(3)または(4)の場合、経費助成として①教育訓練等受講料等の30%～75%+②賃金助成として受講時間×760円～960円が支給されます。

特に今は政府が力を入れている「デジタル・DX」、「グリーン・カーボンニュートラル化」に該当するものの助成率が高くお勧めです。

【例】ドローンの資格を取得する

二等無人航空機操縦士講習を受講した場合

①受講料28万円

②受講時間24時間(1日6時間×4日間)で試算

▼リスクリング支援コースを利用

①経費助成

受講料28万円×75%

＝210,000円

②賃金助成

960円×24時間

＝23,040円

支給総額①+②

＝233,040円

少ない負担で研修や訓練を実施できることに加え、従業員がスキルアップすることによる生産性向上も期待できます。

教育訓練等を実施する前に計画書を提出する必要がありますので、まずは申請手続きについての詳しい内容を管轄の労働局へお問合せください。

岩手労働局助成金センター

019-606-3285

12月17日に林野庁補正予算が成立しました！

「使いたい！」と思える補正予算についてお知らせします。

高性能林業機械、移動式チップパー、山元チップ輸送箱車、新割り機械の導入支援や新規就労者の研修費用、労働安全装備導入などの支援が12月17日に成立した補正予算に

盛り込まれています。

ご関心のある方は、当組合、県
出先機関に早急にご相談ください。
とりあえずのお知らせです。

1 燃油・資材の価格高騰や供給
難への対応【燃油・資材の森林由
来資源への転換等対策】

・木質バイオマスエネルギーへの
転換促進対策として

移動式チップパー、油圧式チップ
タンク、林地残材収集運搬車、チッ
プ・ペレット・薪製造機材設備の
導入に支援

2 林業・木材産業の生産基盤強
化【林業・木材産業国際競争力強
化総合対策】

・原木供給力の強化に向けた路網
の整備と搬出間伐

・高性能林業機械等の導入
・林業機械の自動化・遠隔操作化
技術の実証

・新規就業者への研修、労働安全
衛生装備・装置の導入
等への支援があります。

3 原木・製品運搬効率化体制構
築事業【林業・木材産業国際競争

力強化総合対策】

事業者等による連携、トラック
の周遊（巡回）を行って、輸送距
離の削減・空荷解消の体制づくり
に支援

共同配送や中継物流拠点利用、
鉄道・船舶輸送へのモーダルシフ
ト等の取組支援

林野庁HP
令和6年度林野関係補正予算
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosankesan/R6hosei.html>



お知らせ

「再造林促進奨励事業」
の助成金申請の受付を
開始します！

当組合では、再造林を促進する
ため、組合員が実施した再造林に

対して助成を行っています。

【助成条件】

- ①地拵えに重機（グラップル等）
を使用すること
- ②各県の再造林基金等からの助
成を受けていない場所での再造
林であること
- ③対象樹種はスギ、ヒノキ、カ
ラマツ、アカマツ、広葉樹とす
る

その他詳しい内容や申請書等は
N J 素流協のホームページからダ
ウンロードできます。

申請書の提出期限は令和7年2
月14日（金）までです。

本助成金に関するお問い合わせ
は経営企画課 野田までお願いい
たします。

組合員からの研修生を引
き続き募集しています！

引き続き組合員からの研修生の
受け入れを募集します。お問い合
わせは、経営企画管理部までお願
いいたします。

困りごと

「ご相談ください!!」

業務上困っていることはありませんか？例えば：

- ・書類の書き方が分からない
- ・隣の山の持ち主が不明
- ・造林する人を探してほしい
- ・自分で伐れない大径木の残し木
がある
- ・外来樹種を買ってくれるところ
が分からない
- ・後継者がいない
- ・機械を買ってくれる人いないか
- ・いつも利用していた運送屋さん
が辞めた！どこか他にないか

一人で悩まず、まずはご相談く
ださい。HPの「悩みごと相談室」
もぜひご利用ください。

予告

「免税軽油の申請書
類作成」をテーマに
令和6年度第
2回林業経営講座を
2月上旬に実施する
予定です。
詳しくは後日通知
いたします。

ちよつと気になる木の話

林業予算請求にあたって — 人生は色々。霞が関財務省で 目をつぶれば山の景色 —

林業・木材産業にとって、木材・丸太の需給、価格の動向は極めて重大な事項である。もう一つ大事な事項は、「予算が何に？どの位つくか？」も重要なことである。当然、その結果を一番気にしているのは、森林整備、治山・土木事業に関わる都道府県庁、森林組合・造林事業体の関係者ともいえる。

これを実現するためには、林野庁予算要求を財務省に認めてもらい、政府予算要求にまとめなければならない。この財務省担当は農林2係という部署であった(災害復旧は農林5係)。どういう訳か、この担当主査は、I種大卒ではなく、最初地方部署に採用され、その後選考任用により本省で抜擢された人が多かった。林野庁では、課長補佐になると予算説明に伺うこととなる。

今回は、「主査との思い出を」と。定例の予算要求説明に向いた。案外とうなずき、林業のことわかるのかなと思いい「詳しいですね」と話した。すると「私は、北海道出身で、父親は木材会社経営

なんですよ。」それは詳しいはずだと思つたので、別途出身地に詳しい人に聞いて見た。帯広と釧路の間の町で道有林系の木材会社であった。言い争うことなく、楽しく予算請求説明が出来た。次は、説明後、農林水産大臣の松岡先生の熊本県済々黌高校の後輩なんですよ！と話された。私も地方勤務の振出しは九州だったので、九州各県の林業の特徴とか話して、理解を深めることが出来た。

その後、佐賀出身・長崎出身と九州出身者が多かった。そこで唯一、名古屋出身のお寺の息子さんがいた。お寺なので、木造に理解があるかと思つて聞いたら、名古屋市内なので鉄筋コンクリート造です。それはないでしょう…。と名古屋城木造復活の話とかもして、理解を深めた。主査を替わる前に、次の発言をされた。「私は都市出身なので、本当は山や林業の現場を見たことがないんですよ。一回見て勉強したいなあ！」即、準備しますとして、日帰りできる関東で造林現場、伐採現場、治山事業での緑化復旧現場、製材工場等ハードスケジュールで案内して、理解を深めて頂いた。帰りに「次の担当者には、赴任したら、すぐに今回と同じ様に勉強させていただきたい。そ

の方が、予算請求を理解しやすいのは明らかだ。」この依頼に基づき、次の担当者には、赴任後直ちに勉強視察に行ったのである。今もやっているのかわかりませんが…。

最後にどうしても書きたいのが、国の3次補正予算の時の繰越予算担当者の話である。以前に災害担当の公共5係の主査時代から知っていた人である。2月末に国会通過だと、3月に都道府県庁で県通過予算なので、県議会を通過しなくてはならない。なかなか困難な日程であった。私は、国有林で、民有林関係ではなかったが、知り合いの県庁から相談を受けていた。それなら、県庁に行く前に林野庁で繰越すれば良かった。そのお願いに行つた。目を閉じて話を聞いて「キリタンポ食いに行くか?」「そうだね」となった。その人は、秋田県山本町上岩川の出身で、私の実家の山越えしたすぐの所の出身なので、キリタンポとなった。そこで、仕事の話ではなく、古里の風景、子供時代や思い出、私と同じ高校で進学校だったのに、何故高卒で就職したか等々の人生の話をして過ごした。この店の主人も同じ高校で甲子園に出て、商社勤務後開設した店なので、一緒に話に加わつた。その後は、本来の予算担当者にお任せして、結果、初めての予算の本省繰越

に繋がった。この人はI種ではなくても、後に地方財務局長に就任された。

このような付き合いから、国有林・一般会計化の時の理財局、地方財務局との様々な事案に農林II係から転動後に担当となり、話しやすい環境となったのである。色々と思いい出して書いたが、大事なことは、林業・木材産業関係者ではないが、その会社、県庁、政令都市に理解を得ないと前進できない時に、たまたま山村出身、高校の同窓生、親・父母が同業者の場合も多い。個人情報などで公開されてはいないが、会話の中でわかることもある。何かの関係がわかれば前進突破できることもあるのである。また、都道府県庁での予算要求でも、担当の事務屋さんでも、全く同じである。逆に、全く山や林業・木材産業に関わっていないければ、赴任後早期に現場見学を計画すべきである。紙ベースで引継説明しても、何も伝わらないと思う。時間の無駄使いである。

終わりに、山や森林の見えない「霞が関」にいても、目を閉じれば、自分の人生にとって大事だった山の景色、山村の風景、森林の景色が目の中に蘇り、前に向かってくると確信している。都会にいて颯爽として、我々の仕事と関係ない、理解のない企業にいる人も、人生色々で、もしかしたら目を閉じれば…である！

令和6年12月分の販売実績

| 樹種 | 合板・LVL用 | | | 製材・集成材・その他用 | | | 計 | | |
|------|------------|---------|-----------|-------------|---------|-----------|------------|---------|-----------|
| | 当月出荷量 (m³) | 前月比 (%) | 前年同月比 (%) | 当月出荷量 (m³) | 前月比 (%) | 前年同月比 (%) | 当月出荷量 (m³) | 前月比 (%) | 前年同月比 (%) |
| スギ | 13,631 | 112.5 | 105.9 | 12,170 | 113.6 | 116.3 | 25,800 | 113.0 | 110.6 |
| カラマツ | 5,210 | 93.2 | 101.1 | 75 | 51.7 | 24.9 | 5,286 | 92.1 | 96.9 |
| アカマツ | 2,182 | 120.8 | 47.6 | 48 | 31.6 | 15.8 | 2,230 | 113.9 | 45.6 |
| その他 | 0 | * | * | 213 | 143.2 | 53.9 | 213 | 143.2 | 53.9 |
| 合計 | 21,023 | 107.7 | 93.0 | 12,506 | 112.1 | 109.0 | 33,529 | 109.3 | 98.4 |

| 樹種 | 燃料用 | | |
|------|-----------|---------|-----------|
| | 当月出荷量 (t) | 前月比 (%) | 前年同月比 (%) |
| スギ | 2,832 | 142.0 | 44.9 |
| カラマツ | 4,050 | 106.8 | 67.6 |
| アカマツ | 1,584 | 180.5 | 105.1 |
| その他 | 816 | 158.2 | 97.8 |
| 合計 | 9,282 | 129.3 | 63.4 |

| 樹種 | 今年度累計 | | | |
|-----------|--------------|------------------|---------|---------|
| | 合板・LVL用 (m³) | 製材・集成材・その他用 (m³) | 計 (m³) | 燃料用 (t) |
| スギ | 111,382 | 113,579 | 224,960 | 34,927 |
| カラマツ | 47,356 | 1,889 | 49,244 | 35,902 |
| アカマツ | 20,277 | 1,162 | 21,440 | 10,116 |
| その他 | 199 | 1,387 | 1,586 | 5,295 |
| 合計 | 179,213 | 118,017 | 297,230 | 86,240 |
| 目標達成率 (%) | 74.7 | 67.4 | 71.6 | 63.9 |
| 計画量 | 240,000 | 175,000 | 415,000 | 135,000 |

注)*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和7年1月の需給動向】

- 各工場で夏から秋にかけて原木在庫を抑え、冬期間に入り一斉に原木確保に走った影響により原木不足が発生。特に合板工場はカラマツ・アカマツが不足。集成材工場はスギが不足状況。
- 製材用スギも同じ要因で不足しており、この状況は当面続く見込み。

耳からウロコ

国産材転換時に
大手企業からの頼みごと

— 本来の仕事か？目的は合致！—

木造・木質化、国産材利用促進に取組んできた時代を振り返ると色々な頼みごとがあった。大手企業からの事例を幾つか記憶をたどって書いてみたい。

林業・木材業界人なら誰でも知っている企業である某プレハブメーカーが軸組工法（国産材利用）に本格的に進出する時である。進出に当たって、国産材集成材メーカーを紹介して欲しいとの要望である。日集協という集成材団体に聞けばであるが、全国をブロックに分けて、このエリア内毎に優秀だと思える工場を教えて欲しいとのことであった。特に、特定のこのブロックは一応、ブロック毎に示唆してあげた。

次に某大手軸組工法メーカーである。国産材利用拡大するため、パネルの枠組をラジアータパインからスギに変更するので、小割物が得意な製材所を教えてください。うくん？住宅部門以外に木材部門を持っているのに何故と思ったが、一応こちらもブロック毎だった。配送費を考えてだとわかったが、その

時、38mmから45mmに変えたらと提言したが、とりあえず代替えでとの話で始まった。

その次は、某大手外装材メーカーである。外装に国産材チップを大量に入れた環境にも優しい外装材を作ることにしたので、チップ供給工場を紹介して欲しいとの内容である。立地工場の近くで、ヒノキだけ製材していて、安定的にヒノキチップのみを供給してくれる工場を紹介し、その後適格に対応してくれたと報告があった。他にも、複合床板メーカーから複合床板基材を始める時に、合板工場を……！住宅メーカーから屋根下地をOSBから自ら要望サイズで構造用合板を作れる合板工場を紹介して欲しい！とのこともあった。いつもの取引先ではなく付き合いのない工場のケースである。

このように、川下・川中のサプライチェーンが切れていて、国産材転換する時には大手メーカーも悩むものである。かなり前、少し前の事例だが、現在もこうした悩みを持つメーカーもあるかもしれない。公務員時代だと「この依頼は仕事か？」と考えるたが、目的は、日本の林業・木材産業振興であるので、目的合致である。

でも、本来は業界内でキツチリ関係を築くコーディネーターが必要かなあ！！